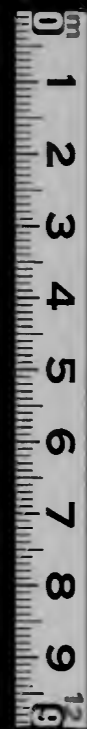


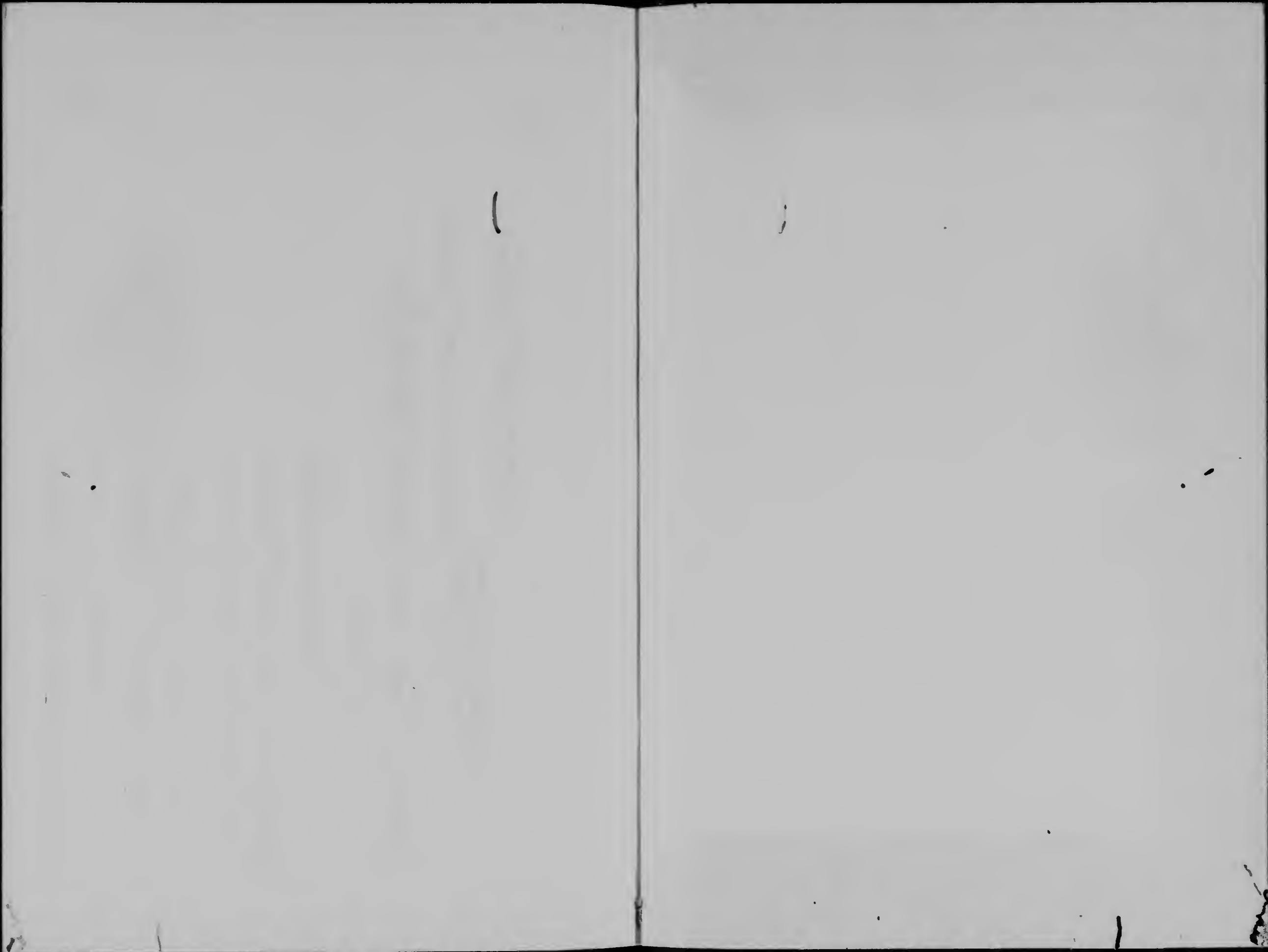
大正九年

三

内閣文庫			
一五二四	三九二	五二五九九	和書類
一七架	冊	號	

内閣文庫			
番號	和	32569	
冊數	394	(\$22)	
函號	152	121	





元禄元年八月廿六日

貞享二年八月 日父整修拜替

大南南森山野舟組

後立石田四郎

二音 尚承(即)由勝

山田南南(即)由勝孫兼祖

山田南南(即)由勝

由勝系大坂の船屋小舟(即)舟屋

元禄元年十二月廿六日社父遺傳(即)

石(即)石田(即)是述の二音(即)八返(即)奉(即)

元禄十一年七月廿六日(即)由勝(即)由勝(即)

由勝(即)由勝(即)由勝(即)由勝(即)

由勝(即)由勝(即)由勝(即)由勝(即)

元禄十一年九月廿六日(即)由勝(即)由勝(即)

組

辞入金部母使等

正徳元<sup>末</sup>年三月十日致仕  
享保元<sup>末</sup>年九月十七日死

元禄元<sup>末</sup>年三月十日

貞享元<sup>末</sup>年十一月九日海月

大津藩森山守組

二<sup>百</sup>後 松平市之守山尹

松平清次市之守山尹

小津清次市之守山尹

正平元<sup>末</sup>年六月十日坂城乃部守山尹

正徳元<sup>末</sup>年六月十日大津藩組頭

同<sup>前</sup>年七月十日坂城乃部守山尹

正平元<sup>末</sup>年七月十日坂城乃部守山尹

正平元<sup>末</sup>年七月十日坂城乃部守山尹

享保元<sup>末</sup>年十一月十日海月加恩

正平元<sup>末</sup>年十一月十日海月

享保十一年夏二東城の宿直小

あり

享保十二年秋恒城に宿直小あり

享保十三年六月十日宿直小あり

享保十三年七月十日宿直小あり

享保十四年夏二東城に宿直小

あり

享保十五年二月十日小令所將の

御小令所將の御小令所の御小

令所將の御小令所の御小令所

馬しめて御小令所

享保十六年秋恒城に宿直小あり

享保十七年夏二東城に宿直小

あり

享保十八年秋恒城に宿直小あり

享保十九年夏二東城に宿直小

あり

元文二年七月十日西城の御直

御直の御直

同年十二月十日布衣長巻御直

元文三年八月十日死六十九歳

(元禄元年 年六月廿日)

貞亨元年 年七月廿日

南番夷小野守組

高井助右衛門 實要惣代

小善清久保云蕃代組

三石 高井助三郎 實明

改新七郎

實明系大坂乃野守小善之事二度

元禄十五年 年六月廿日 南番夷奉承

元禄二年二月廿六日

新田高木五兵衛

元禄田舎

三郎 井上六郎利實

後三郎

五郎

井上新十郎利長惣所

少番清田井上長五郎

利實系大坂の藩士小五郎事度

元禄巳未年八月廿七日海月書後

是より後の三郎後ハ一幸

元禄十一<sup>一</sup>年七月二十日唐系三郎

と系知小五郎と流り少佐の四

五郎系大生郷若谷村豊田郡

中山村能成郡三橋村より二百名  
なり

元禄十六年二月十七日死に仕る

元禄二年八月十八日

元禄二年二月廿五日相之間沙普

新着高木重水組

坂七郎右衛門利若曾  
相之間沙普  
二百俵 堀去六十兩利清  
後二百名

利清京大板乃高木重水重度

元禄十二年十一月九日父の遺海乃

りし二百名分知上り此の二百俵ハ

此の事なり

正徳元年九月十九日大所番組預

正徳元年七月十日板城の御書

小とあるは八ヶ所帳白紙十時俵と



泣り是より五番の度毎思節  
あり

正徳六 未年九月十日兄七郎右衛門  
利信公篤責み居り才たると以て  
利信小遣誨に法入事能く後  
城の惣領として死す 利信も亦と其城の  
名並りたり  
同年十月晦日と那と清しに秘を  
以て兄の遺跡五百石と清し是  
迄の二百石は一と奉り

享保三 戌年夏二条城の惣領より  
あり

享保六 丑年秋坂城の惣領あり

享保九 辰年夏二条城に居る小  
末り世々 己月十日園末より  
奉り書来りて大和國邪山城  
川原清用と令りて六月  
廿四日京職松平仔細守忠周知  
の郎小末とて世に法旅を  
物事(多)の御と兼り其後二  
と清り同月廿五日に五城に  
了りしに清用と替免八百  
石ありて其後三福を起りて

享保九 辰年十月十八日於二条城在  
死

利隆の遺骸を二系に下り丸を所  
室壽寺小送る

元禄元年八月廿一日

中山三郎重房忠勝組

元禄二年八月廿一日

小若清仙石因幡守組

大津藩高木主水組

但馬 中山新次右衛門勝頭

改三郎重房

勝頭系大坂乃經重房小若

元禄十一年八月廿八日 入松平主計頭組

重保正安八月二十日 右衛門源次守

支死

享保九年七月廿八日 死次子也

元禄元年八月廿日

天和二年八月廿日合和

大所番高木主水正組

三右 膳部左兵衛(信成)信親

膳部左兵衛(信成)治用  
小番侍仙右因幡守組

宝永元年中 年十月 拜入 伴田 敬希 守組

正徳二年二月十九日 元組 大所番

元禄元年 守組 (守) 守

信親 京大坂の 経書 小 主 事 度

元禄元年正月

貞享二年三月十日

新番高木玄水組

三後 久保村世傳勝豊

勝豊京大板元新番高木玄水組

山徳元年十月十六日新番高木玄水組

元禄七年八月廿日

貞吉元禄七年七月廿日海月

大雲彩藏清仲書

小並清書後主守屋組

大洲番高木主水組 音後 大雲甚也平信信

信信系大坂の宿屋小並

元禄八年正月十日廿日元方洲納戸

元禄四年正月二十日

定間兼信吉保奏子

元禄二年七月十日

小森清仙名園情等組

大洲番高木主水組

二番 定間控七郎忠上

忠上系大坂北條藩小森系

元禄八年正月二十日拂方御納戸

元禄<sup>三</sup>己未年<sup>己未</sup>正月<sup>己未</sup>廿<sup>己未</sup>日<sup>己未</sup>

大塚<sup>己未</sup>正<sup>己未</sup>徳<sup>己未</sup>公<sup>己未</sup>曾<sup>己未</sup>惣<sup>己未</sup>願<sup>己未</sup>

相<sup>己未</sup>之<sup>己未</sup>向<sup>己未</sup>許<sup>己未</sup>者<sup>己未</sup>

大塚<sup>己未</sup>正<sup>己未</sup>徳<sup>己未</sup>公<sup>己未</sup>曾<sup>己未</sup>惣<sup>己未</sup>願<sup>己未</sup>

輝<sup>己未</sup>並<sup>己未</sup>京<sup>己未</sup>大<sup>己未</sup>坂<sup>己未</sup>の<sup>己未</sup>名<sup>己未</sup>置<sup>己未</sup>小<sup>己未</sup>町<sup>己未</sup>年<sup>己未</sup>夜<sup>己未</sup>

宝<sup>己未</sup>永<sup>己未</sup>二<sup>己未</sup>酉<sup>己未</sup>年<sup>己未</sup>二<sup>己未</sup>月<sup>己未</sup>十<sup>己未</sup>六<sup>己未</sup>日<sup>己未</sup>甲<sup>己未</sup>列<sup>己未</sup>の<sup>己未</sup>赤<sup>己未</sup>地<sup>己未</sup>

沖<sup>己未</sup>田<sup>己未</sup>の<sup>己未</sup>方<sup>己未</sup>々<sup>己未</sup>一<sup>己未</sup>に<sup>己未</sup>て<sup>己未</sup>勘<sup>己未</sup>里<sup>己未</sup>三<sup>己未</sup>俵<sup>己未</sup>

と<sup>己未</sup>し<sup>己未</sup>て<sup>己未</sup>武<sup>己未</sup>列<sup>己未</sup>地<sup>己未</sup>企<sup>己未</sup>取<sup>己未</sup>の<sup>己未</sup>う<sup>己未</sup>ち<sup>己未</sup>ま<sup>己未</sup>て<sup>己未</sup>

治<sup>己未</sup>す<sup>己未</sup>

宝<sup>己未</sup>永<sup>己未</sup>己<sup>己未</sup>未<sup>己未</sup>年<sup>己未</sup>六<sup>己未</sup>月<sup>己未</sup>廿<sup>己未</sup>日<sup>己未</sup>赤<sup>己未</sup>地<sup>己未</sup>の<sup>己未</sup>赤<sup>己未</sup>地<sup>己未</sup>

年<sup>己未</sup>毎<sup>己未</sup>よ<sup>己未</sup>ま<sup>己未</sup>さ<sup>己未</sup>く<sup>己未</sup>な<sup>己未</sup>る<sup>己未</sup>ま<sup>己未</sup>は<sup>己未</sup>願<sup>己未</sup>の<sup>己未</sup>と<sup>己未</sup>く

唐房小由(治家)

正徳年中辞入大治能布守組

享保元年八月二日若作丹波屋  
支配

享保十一年四月十七日死

元禄十一年十二月二日

富直普之六出家法在唐(京尚参子)

大洲藩高泉主生組 二日後 山景右衛門(京輔)

後在唐

元禄八年十二月廿八日唐京二日後

と治也

京輔京大板治監清小兼兼唐

元禄十五年十二月廿八日父老(京)

少小不の料因一(京)遺跡を

頼守

元禄十一年十二月廿八日大洲藩組頭



元禄十八年十一月十九日新公に  
在坂の郎と日替りの儀作とあり

元禄十八年十一月廿二日清加恩  
二百俵凡廿百俵

元禄十六年十二月廿九日のより  
一番所乃海地より后郎の地と  
注す

同年六月廿八日坂城の法徳より  
名をいふ法徳白根村時服ニと  
注す是より一つも世恩賜なり

寛永二戊年夏二東城の法徳より  
とあり

室永六子年二月廿日番所の郎  
お火小かす也

同年に月止言を番所の郎は用  
なりよりにて静也との代り

一して籍と指ね平左衛門より上  
地より注す

室永六子年二月廿二日所用なり  
よよりより番所の元法郎と  
注す

同年秋坂城の法徳小なり

正徳元年八月廿二日辞入松本  
伴更守組

享保元年八月二十日為永井官内奏  
享保九年八月二十日死八十二歳

元禄己未年三月二十日

本番高木采石組

沖妻河内番之河田十傳云知惣所

三傳 内田平左衛門高富

後七傳所

元禄八年三月十日原末三傳後

元禄也

高富系乃御書傳小治元年一度

元禄十五年三月十八日御書傳  
主殿組

元禄己未年十二月二日

御筆書奉り候御意に依り信守奉り

大御番高木五郎兵衛

三郎 依田貞之丞信行

後言奉り

後言奉り

元禄八申年正月廿八日御来二百俵

と記す

信行系大坂の御書に依り奉り

元禄六酉年十二月十日御来二百俵

是迄乃二百俵の返り奉り

元禄十七年十二月廿日御入官書に依り奉り

享保十二申年十月九日致仕御書

寛保二成年八月十日

元禄六酉年八月十日

根岸三左衛門

天和元酉年六月十日 栗原庄組 桐之間所着

元禄六酉年八月十日 根岸三左衛門

定徳系大板村宿屋小形幸彦

享保六丑年三月廿八日 富士見所宿屋者之頭

享保十六戌年十月廿六日 栗原

元禄六年十二月九日

本所番本多能後身組又番付結奉

本所番高木主水組 二番 加藤六左衛門兵衛

改帖在傳

元禄七年六月廿九日 唐木三右衛門

と信也

同年五月二東城の御番小守也

元禄十五年六月十日 住 元方所納戸

元禄六<sup>酉</sup>年十二月九日

大御番池田重良組助右衛門長信様

大御番高木五水組 三侍 宇佐美左衛門長茂

後現系左 改佛九郎

佛右衛門

元禄七<sup>戌</sup>年正月九日 唐系三侍様  
迄也

長政系大坂の宿也 次第事成

正徳元年八月廿三日 御目現系左

号迄の二百俵ハ返一奉

享保十一年二月廿七日 小倉御将

の付出の勢子と勢む

同平九月十九日使兼河津奉承の

兼(或)河津を承る

元文三年九月十九日河津天守番之頭

延享三年二月十九日谷内友

右の郎が火ふかきまははとなり

全好を貸しつる

寛延二年七月二日老祥舎全好と

賜にわたり御寄書支給となり

寛延二年十月十七日死七十二歳

元禄六年十月九日

大町番本多陣宝所組結城所宣海越

小町番高木采云組

二信

小倉山本三郎昌豊

後八百五石

後信在(信)

元禄七年二月十九日信采云二信と

信采

昌豊二系大坂の宿屋小倉事彦

宝永に三年十月十七日海目八百五石

昌豊の二信は(信)とあり

正徳元年十月十二日二条御城所(信)采云

同平二月十九日河津奉承全好(信)采云

何歳と云ふ

享保三十二年七月廿日家小系つと  
お伯一 齋公と云ふ

同年 月 日 伊原黄令 三時辰  
何歳と云ふ

享保十三年 月 日 家小系  
つと お伯一 齋公と云ふ

享保十一年二月廿日 伊原黄令 三  
時辰 三何歳と云ふ

享保十八年八月廿七日 社元と  
つと お伯一 齋公と云ふ  
系職牧野河内守英成 朝臣と云ふ

享保十八年七月廿日 家小系 三十七日 伊原

若一十九日 小普清 不入り 青木  
線殿 助支死と云ふ

宝曆元年二月廿二日 死 八十二歳



元禄六酉年十二月九日

御番殺生身組新助成孝参上

御番高木五水心組 二番 寛助九郎心章

改傳心席

元禄七戌年正月九日 原末二番

心

同年十二月二日 城下御番心章

元禄十五年二月十八日 御番新助番成田

共心身組

元禄六酉年十二月九日

市番本番御出組御出組御出組

大御番高木主水組 三番 富士市代某

後三番子候

元禄七戌年正月廿九日 藤原三郎

と信也

市代傳の某京大板の御出組

事代

元禄十巳年七月九日 海月三郎子候

共し中々の三番候は返し

元禄十巳年八月廿九日 相之間所番

元禄十六年八月廿日所納戸  
宝永六五年二月廿日統免さき  
新洲番安着治存置組入

元禄六酉年十二月九日

大洲番高木兼忠組 二月 同官源藏信浩

改小入所

元禄七年三月廿九日所納戸二月

上信也

信浩系大相の家世不承事度  
元禄十巳年正月廿七日父失知事  
とより右の科同一と遺源

と刺す

享保八年二月二日死

信澄より子左三郎某父の嗣家原  
十二未年望六月十日其て嗣子左  
く一の家主く二信と収  
らる

元禄六酉年十二月九日

大津藩高木主水組 三度 千村八郎

大津藩一柳玄伝身組志士信實書

元禄七戌年六月廿九日唐糸三四段と  
注

元禄六酉年十二月九日

少番清太郎波平組共存利隆惣願

本番若原代組中身組友之助利波惣願

新番高木主水組 二百俵 松平傳之助改倉

後共存願

仔存願

元禄七戌年正月十九日 原系二百俵

とせり

改倉系大極の宿直小年事二百俵

元禄十六未年二月九日 掃方御領戸

元禄六酉年十二月九日

新洲番武田長盛組家傳廣重惣願

新洲番高木五兵衛 二重長 中込市兵衛重利

改平十郎

元禄七戌年正月廿九日應承二百俵

元禄也

重利系大坂此宿進小形也

元禄十六未年六月廿二日初死

元禄六年十二月九日

大御番高木主水組

新御番吉田左衛門組七郎信成被官

二番 小俣源太郎被官

後三番 依

元禄七年正月十九日 鷹取二番 依

治

政英系大御番宿直小御番幸直

元禄十五年八月十九日 父系より

月 口海目三番 依ハ是十七日の二番

依ハ一 奉

宝永元年八月十日 大御番組

同年十二月廿六日沙加恩百全後元  
日書後

室永六丑年七月朔日坂城に宿  
日よあまは沙加恩白根村時後ニと  
冷り是より石事書小あつとふ  
世恩賜あり

山徳二辰年廿二東城の宿あり  
年り

山徳六丑年坂坂城の宿あり  
京保三辰年廿二東城の宿あり  
年り

京保六丑年秋坂城の宿あり

京保八卯年六月十八日替あり  
六百屋の宿あり

京保九辰年廿二東城の宿あり  
年り

京保九辰年九月十日於二東城  
在死

改英の類と六角あり  
京保九辰年九月十日於二東城  
在死



享祿六年十二月九日

元正所頒下賜書品俱著

久所番高木某組 言依 昭宗平八節思忠

改任在傳

元祿七年十二月九日原某二言依

と記す

同年十二月二日城の懸書小某

元祿十五年二月十八日信新所番某

某二節組

元禄六年十二月九日

大御番高木主水組 二番 西尾忠臣師長

大御番高木主水組 二番 西尾忠臣師長

後三番

元禄七年六月廿九日 高木二番

後

長久寺大坂の御番 小糸三番

元禄二年十月九日 高木二番

二番 後

元禄二年六月廿九日 死六十二歳

元禄六酉年十二月九日

大津香取町長門組新佐盛敷惣願

大津香取町長門組 二層 任丹次郎佐盛附

後三層 後新佐盛

元禄七(長米後)首  
酒田年

元禄七(庚)年五月十九日 鹿本二層後と

注也

盛附京大坂乃名進小毛事度

元禄十一(乙)年頼公のしゝ中苗沼田

氏小後(一)と作也

元禄十二(卯)年七月九日海月二層後也

近の三回儀ハ返一献

宝永二酉年十月十日辞入初年二酉改組

享保己亥年八月二日為全由團結

支宛

享保十二未年二月廿日元組大

御番小垣依中守組一掃告

元禄二酉年十二月九日

大御番屋代御中守組惣奉行盛隆惣願

大御番高木五郎組 二層 依田惣干郎盛記

元禄七戌年正月廿九日原末二層

迄也

同奉書二系概乃御番小守

元禄十五年六月廿九日御公相之間御番

元禄十一酉年八月廿日御番小守

世口寺加恩百俵九二百俵

同奉九月 日布衣袋七免

同奉十月二十日所小姓  
宝永二戌年九月六日父久松守言  
増なり是は遺跡哉願す  
宝永六丑年二月七日一統免きまじ  
所書院普酒井下総守組より入

元禄六酉年三月九日

小生組の行角公存後幸友為殿  
大御番高木主水組 二儀 行角新七郎守心

信二音信十日

元禄七戌年二月廿九日所奉二音信  
と云也

奉正京人扱乃御書院小生幸友  
正徳二辰年九月廿七日御旨二音信十日  
是迄の十日迄一敵

群入

延享元年三月十六日致仕

寛延二己年六月廿二日

元禄七年八月十二日

谷本甚良(重宣惣願)

相之間所番

大津藩高木素水組

長尾 谷本甚良(重宣惣願)

後 甚良

同 年 甚 良 二 弟 甚 良 名 甚 良 弟

元禄九子年七月廿日所小納戸

元禄十五年八月廿日大津藩水野

長門守組小入

元禄七年<sup>戌</sup>年閏六月六日

近有<sup>二</sup>帝<sup>一</sup>為<sup>三</sup>山<sup>一</sup>則<sup>二</sup>惣<sup>一</sup>願

元禄八年十二月廿日

相之川<sup>一</sup>津<sup>二</sup>番

大川<sup>一</sup>番<sup>二</sup>高木<sup>一</sup>主水<sup>二</sup>山<sup>一</sup>組<sup>三</sup>二<sup>一</sup>番<sup>二</sup>近有<sup>一</sup>帝<sup>二</sup>為<sup>三</sup>山<sup>一</sup>長

正長<sup>一</sup>京<sup>二</sup>大<sup>一</sup>坂<sup>二</sup>小<sup>一</sup>坂<sup>二</sup>車<sup>一</sup>度<sup>三</sup>

宝永二年<sup>酉</sup>年<sup>一</sup>拜<sup>二</sup>入<sup>一</sup>久<sup>二</sup>具<sup>一</sup>周<sup>二</sup>情<sup>一</sup>守<sup>三</sup>組

宝永三年<sup>戌</sup>年<sup>一</sup>八月<sup>二</sup>廿九<sup>一</sup>日<sup>三</sup>上<sup>二</sup>巳<sup>一</sup>案

元禄七戌年閏六月九日

駒井孫江郎貞後為所

少番清左衛門辰吉守組

大津藩高木五郎組

三番  
四番

駒井貞助貞盛

元禄八亥年二月八日比谷傳馬所

の火災より、赤坂の邸敷火事あり

元禄八亥年八月十日御入申根大隅守組

宝永二酉年十月七日元組大津藩

高木五郎組(帰番)



元祿七年閏八月九日

元祿七年八月十二日被任相之前所番  
同年閏月十九日奉命切取不取不内所免

大御番高木素正組

番人隅身定相三會

小並書信

後三會後 改大御番

三會石

同年閏月十二日原米二百俵

定信原大御番小並書信

高木素正組

是迄の三回儀一返一奉

寛保元年閏八月十二日老辭賜黃金拾

入大御忠臣所支配

室曆六<sup>三</sup>年六月二十日死八十七歳

元禄七<sup>戌</sup>年四月九日

内膳支<sup>三</sup>施

延宝元<sup>丑</sup>年七月十日於神田河

少番清左衛門守

内膳高木主水组

内膳支<sup>三</sup>施

正膳京大板水部丞

元禄十六<sup>未</sup>年二月分辞入并左衛門守组

内膳支<sup>三</sup>施

内膳支<sup>三</sup>施

享保十九<sup>酉</sup>年六月廿日致仕

同年七月十日致仕并判

元禄七<sup>戌</sup>云

元文二年六月廿七日

元禄八年六月廿日

三橋岩倉盛芳参上

所被奉行

南番高木主水組 三橋平助成章

成章京大坂乃名正小者

元禄十三年中総の團中者

地多業社百諸社首陣社のり

しんく之たり

元禄十八年八月廿七日 辞入松平主水組

室水二酉年七月廿日 致仕松平主水

しんく元禄と云

宝永六五年二月廿九

元禄八庚年九月廿日

細田小左衛門時徳卷子

元禄六酉年三月廿四日

桐之間中書

大津藩高木主水組

三右衛門 細田大郎之助時徳

時徳系大坂の宿屋小糸の事度

宝永七庚年九月廿日 辭入之枝松津守組

山徳大志 年六月十日死

元禄九子年七月廿日

四領事官重次物成

小笠原清久保玄蕃組

大津藩高木主事組

再勘  
三音後  
後音字  
六字

後音字  
六字

重清系大坂の宿直小笠原事度

元禄十巳己年七月九日跡目七百字

大石正保元是連の二百字俵八返

敵上才次郎在傳(重吉)二百字石

と合川

正徳元年卯年六月廿日大津藩組

正徳二年二月十日二重城に於て  
富小守連公清が暇に於て時彼に  
と泣き世後とを思賜り  
正徳八年秋坂城の落しに  
享保元年中八月二十日辭入松本  
守更守組  
享保九年八月二十日若合田園守  
支死

享保十七年九月十日死七十九歳

元禄十五年壬申七月七日

本多基信(里盛)の

御小納戸

本多高木主水守組 三度 本多合人而重頼

重頼系大坂の落しに於て事度

正徳二年八月十日

法公院殿清廣敷書之預

享保三年六月二十日一統止小藩後  
如入小藩中川守守組小入  
享保九年八月二十日若守丹覚守  
支死

享保九年十月廿九日死六十一歳

元禄十二年卯年六月廿七日

桂昌院御所御書之元禄通御所書

御書高木主水云組

二番 中澤守右衛門持隆

政大御所書

同日原米二百石之旨也

元禄十二年卯年十一月十二日死二十八歳

元禄十二<sup>辰</sup>年六月廿九日

名取半左衛門信実参子

元禄九<sup>子</sup>年七月 四日

小普清水野長門守組

名取高木重永組

八百石 名取権之丞長船

改易半左衛門

長船系大坂の御寄附小普清重

享保己亥年八月廿日死



元禄十二<sup>辰</sup>年三月廿九日

公本節右(豊)豊貞参子

元禄七<sup>戌</sup>年十二月十二日

小普清水野長門守組

小普清水野長門守組

七石 公本忠(豊)豊俊

豊俊系入坂の家系と云ふ事

しりて十二<sup>辰</sup>年小普

元禄十一年三月廿七日小普

の時小普田能次郎豊俊

歩行惣子小普

元禄十六<sup>癸</sup>年六月廿七日死

元禄十二年正月十九日

久保三郎有重勝之妻

元禄八年十二月十二日海月

小笠原清兵衛母殿

大内番高木主水組

景石 久保源六郎信貞

白三郎

後三郎有重

三郎有重

同年十二月二日魚塚の宿屋小町

元禄十六年三月九日井方河内戸

元禄十二年辰年六月廿九日

石津九条忠重為願

元禄十五年七月十四日

小善清公保玄善長組

大内番高木素水組

但馬 石津九条忠重

改九条清  
久存

同年月日二条城乃御書小善

元禄十六年秋城の御書小善

宝永二年二条城乃御書小善

宝永元年十一月廿七日御書腰物方

元禄十二年<sup>辰</sup>三月廿五日

佐々木新傳一宗惣願

元禄十二年十二月廿六日海月

小菅傳村誠伊豫守組

新番高木三木組

巴後

佐々木庄兵衛一晋

後 庄兵衛

一晋京大坂乃名直より事

〜

山徳元年二月十日新番玄屋頼母組

元禄十二<sup>辰</sup>年三月廿九日

水田権右衛門治政参子

元禄十四<sup>庚</sup>年七月十日海月

小善清水野長門守組

大御番三白木主水山組

音右 水田金次史政朝

口可候

政七郎守

改朝京大坂の警備小奉行事

口可候

正徳六年九月廿日辞入大崎肥前守組

高保正三年八月二日若松平

常日支取

延享元年七月廿日音死寺宗

元禄十三<sup>辰</sup>年五月廿九日

宗山源房宗忠次男忠順

元禄八<sup>庚</sup>年七月九日家督

小番清兵衛母守組

大御番高木重水組

目付

宗山宗有(景宗)

豊条系大坂の御番小糸重彦下

享保八年六月十日大御番組取

享保十三年七月初日大坂御番取

とあるは御下と御白銀取時膳を

たりの是より在昔の度、母小糸恩賜

り

享保十三年七月廿二日宗山宗有

享保十六年秋坂城の法皇御事

享保十九年冬二条城の御事

七

元文二己年秋坂城の法皇御事

元文六甲年冬二条城の御事

寛保二戊年三月廿六日死六十二歳

元禄十三辰年五月廿九日

和年八節在傳(安武出願)

貞享元年月 日 曾

小善信和年五月改組

和年高木主水組

三辰 和年台之助(安長)

改行在傳

正長系大極乃宿直小善

享保元年十月十九日辞入和年主水頭組

享保己亥年八月二日岩瀬川渡り

支院

享保八外年九月朔日死六十五歳

元禄十二年庚申正月廿日

佐东七藏氏之養子

元禄九年十二月廿日家督

山崎藩松平主事組

山崎藩高木主事組

旨後 佐东勤有氏高

氏高系大坂の宿屋小名主事二度

宝徳二庚申年主事二重城の御奉行

新の御時名刺と移り

宝徳元年二月十日新御奉行仁木甚兵衛組



元禄十二<sup>辰</sup>年三月廿九日

神保基公使清満惣領

元禄九<sup>子</sup>年七月九日

小普請水野長守組

大御番高木三水組

二<sup>百</sup>後 神保基公使長船

長船系大坂の番匠小普請長守

享保己亥年八月廿日死

元禄十六年八月十日

版高傳八郎胤高養子

元禄十六年八月十日

小善信津口権守組

胤高傳高木三木組

三木信

版高傳八郎胤守

政源八郎

胤守系大板の右近小善信津口

元禄八年八月廿二日城に御座りて人

とてしりし小福とて呼ぶなり

元禄九年八月十九日於二条城に死す

胤守の類と干本通し七本松津

因守子と通す

元禄十六年八月十日

大井小左衛門端隆奉子

元禄十六年六月廿七日

小菅信井戸對馬屋組

大井番高木主水云組

昌若 大井新九郎政時

因三子候

同春秋坂城村誌傳小左

宝永二酉年九月九日

宝永二酉年十二月十九日

宝永二酉年十二月十九日

宝永二酉年十二月十九日

宝永二酉年十二月十九日

桂昌院君乃周家乃御用

今下を正徳六年六月廿四日世度の事あり  
昔よりとて黄金に時服と云ふ

宝永六五年二月十日新

御仏殿と違ふとて法用を金と云ふ

因新法法金法用と金と云ふ

二月十日法法金法用と昔より

とて時服と云ふ

同年九月廿九日未月

常憲廟周家の法法金法用と金

と云ふ

宝永六五年十二月十日東叡山

常憲廟と違ふとて法用と昔より

とて法加恩百俵九百二十石

宝永七寅年十二月十日未月

淨光院君二面の法法金法用と

金と云ふ

正徳九年二月十日世度の事あり

昔よりとて黄金に時服と云ふ

正徳二年正月十日死

元祿十六年四月十日

松平世宗忠義英子

元祿十八年十二月十八日

小幡隆井戸對馬守組

南番高木主事組

音名

松平世宗忠義

改九節有馬

忠政系人梅村右近小幡隆井戸

享保十八年二月十八日老辭賜賞令二

入丹羽左衛門守文配

同年十二月二日致仕宣旨上云

寛保元酉年十二月十二日死八十累

元祿十六年八月十日

徳川幕府惟房養子

元祿十七年七月九日海月

小善法寺戸對馬守組

御番高木素水組

八景 徳川幕府惟房

宝永二年六月十日入松平三平頭組

元徳二年八月海月死

元禄十六年八月十日

森山市奉行盛田勘

元禄十八年六月廿七日

小菅清井奉行馬守組

大洲藩高木素正組

三石 森山佐信盛壽

内口儀

盛壽系大坂石屋小右衛門

宝永八子年閏五月十二日新洲藩奉行松平  
組

元禄十六年正月十日

柳永代筆

元禄十二年正月九日

小菅藩

高木重光

柳永代筆

同年秋

室水元申

乃年正月十日

乃年正月十日

乃年正月十日

室水二酉年正月十日



室永三戌年十一月廿日死二十九歳

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

元禄十六年正月十日

逸見七重子我雅春子

元禄八年七月廿日

小菅清公保云蕃頭組

小菅高木主事組

二日後 逸見源太郎義和

義和系大坂の宿屋主事云々

享保十三年八月廿日大御番組頭

同年いすゞ居郎あゝは国性(後)

義持の浪河谷乃倉保の郎千世孫

乃ち千世孫と初乃ち千世孫

享保十一年二月廿日小倉守将

のち養騎馬より海土地買起り

白夷角松皮書と並に仔玉羽  
減と着しと移し

寛保十二年十一月廿八日極城乃

名東小島に居りし由白浪村隣二

と移す

寛保十八年十二月廿二日極城乃

と移す

寛保十八年秋極城乃移す

元文元年十二月廿二日極城乃移す

と移す

元文元年秋極城乃移す

寛保元年七月廿九日極城乃移す

関内記の一件より一人を和と奪す

二人の和を放す

寛保元年八月廿九日極城乃移す

と成りし極城乃移す

寛保二年十二月廿二日極城乃移す

延享元年六月廿九日死

元禄十七年正月十日

元禄十八年正月十日海目

小幡源次郎藤巻子

小幡源次郎藤巻子  
小幡清松平系組  
二箇石 小幡万之右衛門信  
日下候 改新八席

山信系大坂乃藤巻小幡系之御

寛保十一年二月十日小幡清松の

とて其出立の御子と務む

寛保十二申年二月十日小幡清松の

御子とは麻布系松巻とて百石俵

乃地と云候

元禄二十二年十月十八日辞入松平系清松

寛保二戊年十二月十二日死六十歳

宝永二酉年十二月十日

宝永二酉年七月晦日家督

高木主水組

高木 三尾 津所 信致

三尾 津所 文信 卷子

七善清 太保 玄蕃 組

改 為 十 郎

信致系大坂の御用小者なり

宝永七酉年十二月十日津所御殿

奉召と兼て御用と為り

享保三申年九月十日頼のとう

津所御奉召と免さる

享保五子年十二月十日辞入右馬内格支死

享保七酉年十二月十日致仕

享保十二年十二月廿九日

享保十二年十二月廿九日

享保元年十二月廿九日

大津藩高木主事組

戸田常信清益奉子  
小普清村平主事組  
戸田常信清益奉子

忠辰奉大板名出小普清主事度々

享保元年十二月廿九日

享保元年十二月廿九日

享保元年十二月廿九日

享保元年十二月廿九日

享保元年十二月廿九日

賜行

享保六 丑年秋坂城の宿屋小次郎  
享保九 辰年其二番城の宿屋小次郎  
享保十 午年二月十日小倉守将  
の上美里城小次郎乃牡丹唐草と  
並あり伊達羽衣と若くして騎  
馬侍子に志しきふ

享保十二 未年秋坂城の宿屋小次郎  
享保十八 丑年其二番城乃宿屋小次郎  
享保十八 丑年秋坂城乃宿屋小次郎

元文元 辰年其二番城乃宿屋小次郎  
元文元 辰年正月十日掃部河内守  
因年十二月十六日布衣者と免さる

元文六 申年六月十九日死す六十二歳

室永二酉年十月廿

駒井孫代而自後惣願

小書清二校者孫代組

今番高木三永組

二酉年十月廿

駒井自後惣願

室永二酉年其二系城の宿屋小あり

室永二酉年其二系城小あり

室永二酉年其二系城小あり

室永二酉年八月八日於二系城若死に十八歳

宝永二酉年十一月十日

元禄六酉年十一月六日

南番高木主水組

三石 野呂文彦(春京)

野呂文彦(清京)願

十番清久(貞)同情守組

春京(京大坂)の名進(小)新(重)彦(一)

宝永十一年三月廿日(小)合(市)将

の(時)八(息)男(市)十(席)と(出)立(結)成(す)

出寸

宝永十六(亥)年十一月廿七日(小)由(切)取(清)文(彦)

宝曆(巳)廿年七月廿日(死)



室永二酉年十二月十日

天皇御忠誠為願

元禄十六年十二月十日

小普清公孫高増組

高増組

高増組 高増七郎忠利

忠利系大坂の忠臣小普清の孫

元禄十六年十二月十日 高増組 高増七郎

支統

寛保三年十二月十七日 高増組

忠利の身用高増組 高増七郎

忠利の身用高増組 高増七郎

忠利の身用高増組 高増七郎



室永二酉年十二月十日

元禄八年庚午七月十日

大津藩高木素成組

池田小左衛門利重奉子

小普請長谷岡信守組

三喜 池田教馬波相

室永六子年五月十日新津藩松平主馬組

室永二酉年十二月十日

曲園維新傳三則書

元禄十二年十二月九日

小普信二夜抄律書組

大所書高木三水組

二夜抄 曲園維新傳廣英

廣英系大坂の宿屋小普信二夜抄

正徳十二年十二月十日新所書安友抄律書組

宝永二百年十二月廿日

元禄八十五年七月十四日海月

舟番高木主水組

小林重彦 西平卷子

小菅信貞 岡崎守組

音全右 小林正徳 舟番

四半俵

宝永二百年十二月廿日

宝永二百年六月廿日 舟番入之員 岡崎守組

宝永七百年十一月廿日 舟番 岡崎守組

宝永二年八月十日

元禄七年七月十日

本州高木庄水田組

二百石 五花助六郎種治

五花與三信種成二郎

小善信之國田信守組

種治系北組

宝永七年八月十日

高木庄庄主八月二日

支那

宝永十二年八月十日

室永二酉年十二月十日

長谷川信重 奉納

元禄七年十一月十日

小幡清久 奉納

室永高木主水組

二儀

長谷川信重 行

忠行 系大坂小幡

室永六五年秋 大坂小幡

賣付 大坂小幡 町名

小幡心 一丁

室永六五年八月廿六日 小幡信入 校持 奉納

同年九月 町名 狂屋 せ

一丁 一丁 一丁 一丁 一丁

尸て私小田願なりとて傳せし  
信の不通口の四野列動して七十二石  
田地附と収りき且田沼之物忠厚  
より家禄二層本三百俵送ふ可なり  
治り

享保六年十一月十二日死す

宝永二年十一月十日

元禄八年七月十日

南番高木主水組

三層 佐々木次郎常定

佐々木主水信之丞春惣願  
小番後分保玄蕃義組

宝永二年六月二十日死



宝永二年十一月十日

青木平助信之養子

元禄十三<sup>辰</sup>年七月十日

小善清組玄孫玄善組

御番高木玄水組

三信

青木玄之信茂

信茂系大極の居並小名事三度

三度居極より一りの狂候が六

川

享保元年 月 日 乱心自害三十九歳

室永入子 年二月十日

去后勤働云春惣願

中納戸

大納言高木主水云組 三 三俵 云屋治信云英

後正右

云英京大坂の御用小納言云度

享保に云年二月十九日御目上右

是迄の二百俵ハ返一奉

享保八外 年二月十日大納言組願

同年 月 日 三條御名云小

云云云ハ御用白銀十俵云云

是迄の二百俵ハ返一奉

享保十一年二月廿七日小令御將  
乃時馬よりて地白腰より上花色  
大指子九曜の星三つ腰より下ね皮  
菱三つ糸より層厚浅黄の御威と云  
して御子と務めし

同年秋坂城の詰唐小あり  
享保十一年夏二条城の詰唐  
りしあり

享保十七年六月十日辞入大臣  
忠臣御支死  
元文二年二月十日死七十三歳

享保六年十二月十日

大村友重高豊高本主水組高豊大村友重高豊

高豊系大坂の宿願小高豊  
享保六年七月朔日辞入内友系女支死  
享保十一年二月十日死七十九歳

室永六五年二月廿日

元禄十二年十一月廿日

大相番高木主水組

二番

松平教馬光昌

改市在傳

松平主水傳馬定典

所定行相之間所若

光昌京大坂の宿世小高主水

元文元年八月廿日大相番組領

同年七月朔日坂城の法橋小系

まじりし暇白紙封書候ニシテ

寛保元年本に番組より預目人

相番園内記事にも紙履せし事

一奉小よりて七月廿日西尾

既海舟也並相居の郎よりきて  
世度番頭酒井敏中身より定内化  
り手紙檢合りよをえせし時相送を  
敏中身より建檢合の宛たりく  
市名小むかひす市保を奪集を建  
範后よりしと信出るる  
宝曆八壬午年十月十二日死七十六歳

宝永六壬午年二月廿日

寛文二壬午年二月廿日神田郡被官

本宿高木五水組

山本源兵衛  
元神田藩  
市名三相之間村番  
二百俵

山徳八壬午年六月辭入朽木園防舟組

山之東大坂の宿屋少主人

京保仁壬午年八月二日若狭川渡舟  
支配

享保十二申年十月十日死八十歳

室永六丑年正月廿

新中書右丞相兼左丞相領中書

高木兼光組 三員 清水七郎重實豊秋

後三員右 四員左

因年四月廿一日應永二百俵と注し今  
年八百俵と注し不注とあり

享保八年十二月廿日御月二百六十石

此の二百俵は返り敷

豊秋、東大板の石車、永年、度々

享保九年 年十二月廿八日於二条城並死

豊秋の頼と京都出水寺中道長遠

平小送子

宝永六年七月廿日

南番高木主水組

後音石

二石 中澤吉次郎系林

市書河内切上番三石高木宗貞惣代

同年同月廿二日高木二石儀と云り

今年八月儀と云ふ作と云り

宗林系大坂の御奉行小系宗直

享保十一年六月廿日御月廿四石

是迄の二石儀ハ返一奉

寛保三年七月廿日死す云々

宣永六壬年正月廿日

西元燒火三河府若佐服深清安邑英亨

御番高木五郎組 二儀 佐脇孫三郎安仁

後傳十郎  
海三郎

同年同月廿二日唐本二日後と云り

今年八百歳と云ふ作と云ふ

安仁系大坂の島匠小島系筆意

享保十七年十一月朔日

小五郎主近習

同年十二月十七日布衣若と免と云



享保二十九年九月初十日用人  
咄(通)此作と意也

寛保元酉年十一月八日年次公と云  
一七抄むりて清加恩三言後  
元正言後

寛保二戌年九月八日父夫為まじ  
こ増父ハ二百十後  
五八言後遺海と  
頼子

延享元子年八月廿八日御定立  
宝曆二戌年九月十日

右徳廟の御定立と抄りて  
時後と云

宝曆二戌年二月八日老辞時後と云  
迄也宗令也列す

同年八月二日致仕と科二言後  
迄り

宝曆十一己年二月廿八日死八十九歳

室永六 丑年巳月廿日

江戸屋敷番之次 陸奥友房 養子

大御前高木主水組 三郎 陸奥傳也郎

同奉同日在二百席床三十四候と記す

今年八百俵と申す作と記す

室永六五年九月廿

本御番高木至水云組

二層 雜波田經殿御憲之

後二層全後 後三層全後

御身首之所雜波田若左衛門憲徳殿

同年月廿二日二層全二層全後

今年八百俵とありし作とあり

憲之系大坂の名道小系と事度

享保八年八月廿日御身二百全俵

是迄の二百俵は返し一層と

寛保元年六月廿七日本御番組殿

同年月七月初日坂城の名道小系連八

伊能白銀村時後三と注し是より  
川と母恩賜なり

延享元年辛亥二島城に宮内  
とあり

延享元年秋坂城の法印  
とあり

寛延二年辛亥二島城の法印  
とあり

宝暦二酉年秋坂城の法印  
宝暦二酉年九月に死す六十

宝永六酉年九月

伊能白銀村時後三と注し是より

伊能高木三左衛門 二歳 武治七左衛門勝

後子石

同年同月廿二日 伊能三右衛門と注し

今年八百俵と注し 伊能とあり

伊能高木三左衛門の法印とあり

延享元年十二月廿六日 伊能高木三右衛門

是連の二百俵ハリ 一奉

享保二酉年十月廿七日 伊能高木三右衛門

室永六五年巳月廿日

本番池田幸子組孫太史尚駒養子

本番高木主水組 二言候 永井正徳尚伯

後三言候

後孫正徳

同年同月廿二日應永二言候と在り  
今年八百俵とあり作と在り

尚伯系大坂の御書付次第

享保十一年三月廿七日小令所將  
の時歩の御書を移心是より先  
享保元年三月二日海月二言候是  
連の二百俵は延一奉り

享保十八年八月十九日羽列清代官

同日六百石の支配所と預金云

享保十九年八月廿日駿遠三乃

清代官二百八十五石増地九十七石

石と支配寸

享保二十二年八月十九日二九所留寄居

同年十二月十八日布衣名と免す也

宝暦二年六月十二日老辭時後三

と賜已寄合より寸

同年六月十日死七十八歳

宝永六年八月廿日

所勘定組宗本友存信物願

本村高木主事組 二百俵 宗本友治郎弘安

同年同月廿二日原来二百俵と云り

今年八百俵と云ふ作と云ふ

弘安系大坂の宿屋小と云ふ事云

享保九年 年二月十八日辞任後出雲守

支配

同年八月廿日死二十九歳

室永六五年己卯日

元方所納戸籍俵物有某惣願

大御前高木某組 三俵 猪俵平六郎某

後物有某

因年同月十日唐茶二百俵と云々

今年八百俵と云々小作と云々

正徳元年己卯年己卯年己卯年

大御前高木の村に小列して六月

十日唐茶二百俵と云々唐茶と云々

平六郎某系大坂の宿屋と云々

父方某と云々

多々市の料因一ノ遺跡と  
頼子

享保六子年六月廿八日改易

大くはしりて二百俵と改りて  
家絶せり也

享保六子年四月廿日

大御番高木某水組

御腰物方尾崎半八郎某惣願

二百俵 尾崎傳介某

後二百俵候 後仁彦

因年同月廿二日原来二百俵と改り  
今年八百俵と改りし作と改り  
傳介傳某某大板の宿屋小某事  
度々

海月二百六十俵

是迄の二百俵は返一勘

辞入



支配

享保十六年六月廿九日西陽原物言

享保十六年七月廿日

大所番高木素組 二番 戸張九郎高那流

中陽物言二張武右衛門方胤養子

同年同月廿二日唐床三番後流

那流系大坂の那流小高事二番

享保十六年七月廿日 位那流 死二子二家

室永六<sup>五</sup>年巳日

中隱物<sup>五</sup>室永<sup>五</sup>年巳日

南番高木素永組 三<sup>五</sup>後 山本庄九郎恒忠

同年四月廿二日 廣永三<sup>五</sup>後

今年八月後 三<sup>五</sup>後

恒忠京大坂乃名進小<sup>五</sup>弟

享保二<sup>五</sup>年十一月十日 恒忠死

宝永六<sup>五</sup>年正月六日

新着高木宗水組

二百俵 土屋源兵衛(泰重)  
後二百俵

西尾焼火三河新着土屋安美(盛定)参子

同奉同月廿二日唐来二百俵と在り

二〇〇〇〇〇俵と在り小作と在り

泰重二系大坂の御用小作事也夜

京保正五年正月廿八日海月二〇〇俵

に俵と在り二〇俵は返一奉

京保六<sup>五</sup>年秋極城の結清り

参り一〇〇俵

享保十七年六月廿七日於大坂城建立御廟

享保六年正月廿日

御廟高木主水組

御廟池田節口組九美生高養子

二百俵 鈴木源次郎

後田守右

改方守席  
九左衛門

同年同月廿二日高木二百俵と池田  
今年八百俵とありし作を断り

従正系入坂の宿並小糸年一度

享保十一年二月廿日小糸御持  
の時歩行惣子と惣先

享保十八年八月廿日海月守席

是迄の二百俵ハ返シ敵  
元文六<sup>申</sup>年九月十日死六十一歳

宝永六<sup>丑</sup>年正月六日

大所番高木某組 二百俵 三澤勝之物某

大所番玄屋山藏守組庄尾信光惣領

同年同月廿二日唐来二百俵を返り  
今年ハ百俵を引下し作と為り  
勝之物某某大坂の庄尾小次郎某  
度

庄尾 死

室永六 丑年四月廿日

南番高木主水組 二番 河内河津郡流治

南番の東右直全組並に流清也

後六百石

同年同月廿日 唐末二百俵に在り

一〇〇俵をりし作之敷

流治系大坂の御奉行小倉の奉行

享保十一年二月廿七日小倉守將の

より買歩の御奉行と書先

享保十二年六月廿八日御奉行

先達の二百俵ハ一〇〇俵

享保十八年八月廿八日死に十六歳

享保六<sup>年</sup>八月廿日

不肖者高木重永組 二日後 保長長江而自寛

不肖者河越慈庵身組七日後自親惣願

同年四月廿二日原永二日後

貞寛京入極の宿直より事度

享保八年三月廿七日 御座 辞入右馬内膳

支此

享保二十年十二月二日海月廿四日

是迄の二日後ハクニ一奉

元文元年十一月廿日致仕

寛延二己年十月廿日死

宝永六己年正月廿日

不審高木主水組 三回後 百年三席次而頼隆

不審高木主水組は常高頼隆可也所

同年同月廿二日席末三回後と云り

今年ハ百俵城の内の作と云り

頼隆系大板の君並小糸多事度ハ

三回高父頼隆

瑞春院君の御用人となせ布衣以

上と云り

享保七己年二月廿日 不審高木主水組

不審



安友行勢守組

宝永六年正月六日

大御者高木素永組

三辰

大井庄九郎政品

小普清万寿新九郎政時意願

後各于右四音三辰 後小普清

同年四月廿二日唐赤三辰辰と注り

六と一八百辰とすし作を承り

正徳二辰 年七月二日御月六日二十石

迄乃二百辰八返一奉り

改高系大板の御書信小系事書

享保九辰

年二月十八日御入内者系女系記

享保十辰 年十一月六日死

室永六世 年四月六日

小普信守石川信左衛門一致養子

不内番高木三永祖 三辰 石川官内一敬

後三君

四子三辰

後信左衛門

同奉同月廿二日 應永三十四年

同奉秋頃城の警備小奉行あり

二乗城ももよりて 宿直正々年夜

享保六年十一月九日 海月三十四

是の三十四年ハ一奉

享保十二年七月廿四日 大御所

清洗乃村を小列して海軍を以て  
時情に記す

寛保十七年七月十二日書替奉り  
と兼(身作)と記す

元文元年<sup>辰</sup>十二月廿八日御贈頌

元文二年十二月十二日在公と記す

一して格とて黄金に記すは是

より年毎に御恩賜あり

寛保元年十二月廿八日元方御納領

同年十二月十九日布衣と記す免す

延享二年二月十八日

竹姫君乃清方清用人

明和二年十二月廿八日老穉時情に  
記すを合小列す

同年十二月廿八日致仕と科と記す

同年同月十日致仕と記す

以

同年十二月廿八日死七十八歳

室永六十五年正月廿日

小善清言本多能清重宗奉子

本御番高木主水忠組

二百俵 女史長次郎忠包

後世百石

双八百俵

同年同月廿百席本二百俵差子

忠包系大坂の御番小善清重宗奉子

享保八年十二月廿百席月廿百石

是の二百俵ハツク一奉ら

享保十一年二月廿百小舎御侍の

時より御子と替り

享保十一年十二月廿百大御番組頭

享保十八年二月十八日二重城より  
直小島に赴きは清原白根村時盛に  
泣き是より在番乃一度毎に在  
恩賜あり

享保十八年秋坂原の法書あり  
元文元年夏二重城より直小  
島あり

元文二年九月十九日死

宝永六年正月

大和藩屋代御中身組

法華宗教奉行並に法皇御前直書奉行

大和藩高木主水組 二重城 法皇御前直書奉行

同年同月五日慶長二百俵と在り

今年八百俵とあり小作と在り

院直京大坂の御書小島主事直書

享保十八年三月廿八日御前 西丸新所番

平岩七之助組

室永六十年正月

南番高木主事組

南番酒井紀行等組諸君御願

二百俵 水東亮十郎保氏

後二百右 二百俵 後次郎重

同年四月廿二日原赤二百俵と云ふ  
今年八百俵と云ふ作と云ふ  
保氏京大坂の宿屋小糸重彦  
享保二百年正月廿二日海月二百右  
是迄の二百俵八返一敵  
享保九百年十月二日願のト

赤地上総の國御狩取栗山村年  
ふくに而勢少なりきい原系ふ  
く冷也

享保十一年二月廿六日小倉御狩の  
時歩の勢子と勢心

享保十一年二月廿六日御書物奉行

寛保二年二月十二日死七十一歳

宝永六年十月廿九日

寛文二年正月廿一日松田上法基

岩田右衛門富成公曾  
西元燈火之間湯番

大津藩高木五水組

元橋田藩  
三右衛門 岩田太右衛門富保

享保八年六月廿七日入公保津浪守組

享保八年八月二日若杉平常刀  
支配

享保八年八月二日死八十一歳

室永六五年十月廿九日

室永正房在傳惣願

延享六年十月廿九日橋本御代

西尾焼火之同中番

新番高木主水組

元禄御代

三右衛門 室永一學在英

後正右衛門

延享六年大坂の御代高木主水御代

西徳元卯年七月廿二日御代正右衛門

是迄の三右衛門返一奉り

享保十二年七月廿一日辭入在奉所波守

支配

元文二年十二月六日致仕在奉去

寛保二年八月十日死八十歳



宝永六<sup>丑</sup>年十月廿九日

元禄十二卯年七月十日於榎田御月  
二市俵之内二百九十俵

青木基平山内宛

西丸燈火之間御書

大冲番高木素心组

元禄田所

二百俵 青木素心素心御教

正教系大板の宿屋小系

正徳六年六月 日辞入大板肥前守组

享保己亥年八月二日為安友之信

支配

享保十三年十二月廿四日死六十五歳

室永六丑年十月廿九日

元禄八中年三月十日發條田海骨

岩田清存富秀惣願

元禄八年三月十日

本所番高木主水組

元禄八年

二日辰 山田清存富郷

富郷より京大坂の御用小者事云々

京保仁子年辞入仔丹寛在傳山文配

京保十二歳年八月二日致仕

元文三年年六月廿八日死

室永六世年十月廿九日

宋安有(舊)義後惣領

元禄十五年三月廿七日御書院書

西元燒火之間御書

御番高木重忠組

元禄田書

三后

宋小寺親成

後言年六后

改者在傳

親成系大坂乃名正小寺重忠より

山徳二后年七月二十日御言年六后

是迄の二后候ハ返一奉

享保十一年三月廿七日小寺重忠

の時より傳子と格免

享保十二年八月十日新御番二枚在傳組

宝永六年十月廿九日

金森公直(可)是惣願

元禄十六年十一月御田御領御領組

西九條公之川御番

御番高木某組

二日後 金森公直(可)可矣

可多(可)大坂の御番(可)小(可)年(可)夜(可)

享保十三年七月十日

御座

小次郎殿近習番

同年八月十八日(可)居(可)郎(可)家(可)主(可)は

小(可)向(可)新(可)慶(可)橋(可)より(可)二(可)百(可)坪(可)乃(可)地(可)と(可)是(可)不(可)

社(可)と(可)是(可)久(可)小(可)着(可)陸(可)主(可)と(可)あ(可)ま(可)は(可)

享保十二年十月十日

御座

死(可)年(可)三(可)某

宝永六壬年十月廿九日

元禄七年七月十日於榎田海

小御所高木素山組

磯谷三郎清氏信卷子  
西元元年之間所書

三層 磯谷源三郎恭隆

段三郎清

恭隆系大坂の御書小御所

享保十一年二月廿日小令御所乃

と云々 駿馬馬と移心

享保十六 亥年八月廿二日死

宝永六年十月廿九日

元禄十三年七月十日於榎田浦目

御番高木素次組

榎田浦  
三右衛門 於本在尾山沼惣領

三右衛門 於本貞七郎重信

正徳元年十月七日辭入松平素次組

享保元年八月二日為右馬内膳

享保九年十月九日御番山内守

組入

室永六丑年十月廿九日

水野能十郎道義卷子

元禄六年八月 日於梅田町

西丸焼火之用所者

今昔高木系山組

元禄四年

三音候

水野海平次道負

道負京大坂の宿直小系平次

享保十巳酉年十二月十九日辞入小出伊織

支配

享保十九年二月十日死六十五

正徳二年二月十九日

服部左衛門信成

小書清松本信成組

大御書字津出雲守組所着 二首石 服部左衛門信親

信親系大坂の御書小書字津出雲守組

享保十二年二月十九日小書字津出雲守組

とある所の御書とす

享保十二年二月十九日小書字津出雲守組

とある所の御書とす

享保十七年二月十九日死



2

